
Got.Knows

M A N A

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G o t . K n o w s

【Nコード】

N 6 9 8 3 0

【作者名】

M A N A

【あらすじ】

変わった“力”を持った高校生、

宮本文都は始業式の帰りに1人の少女を助ける。次の日、その少女が文都の家に押しかけてきて・・・

1 武軍

春の日差しが、少女の部屋へと差し込み始め
黒髪を無造作に遊ばせた少女は、重い目蓋を見開いた。

「…んう…くうああ…」

大きな欠伸を零した少女、十六夜未夜は
モゾモゾとベッドから這い出た。

鏡を見て髪を整え、1階から立ち昇る朝食の匂いに誘われて、未夜
は部屋を後にした。

「おはよう！パパ、ママ！」

「お！おはよう、今日は早いな」

新聞を読んでいた長身で細身の父、十六夜斑は
いつもより早い起床をした娘に笑いかけた。

「うんっ！だつて今日は…」

「おはよう未夜っ！悪いけどご飯運んでくれない？」

未夜の言葉を遮って、癖のある栗色の髪を靡かせた母、十六夜朝夜は
湯気が濛々とたっている鍋と向かい合っていた。

「あっ！はあゝい！！」

一通り料理が並べられ、3人一緒に両手を合わせて合掌の後に食べ
始めた。

「「「いただきます！」」」

「ううゝやっぱり、ママの料理は最高だね！！」

「ふふっ、そんなに急いで食べなくても、沢山あるから大丈夫よ」

「そうだぞ。ゆっくり食べても時間はあるんだから」

和やかな朝の光景の中、未夜はおもむろに立ち上がって
瞳をキラキラとさせて言った。

「だって今日は、私が町を出る日だし！

早く私も『武装軍事専門学校』ぶそうくんじせんもんがっこうに入学したいんだもん！」

「……いいんだな、未夜。お前は他にも行ける高校は沢山あるんだぞ
？」

斑が少し心配そうに言うと、未夜は安心させるように微笑んだ。

「いいの。私は“外の世界”でいろいろと見たいものがあるから！」

そうなのだ。未夜が住んでいる町、『E S P C』は世界で最も科学
が進歩した町と共に

超能力者が中心の町であつた。この町は、周りを高い鋼鉄の壁で仕
切られ、外部からの干渉を
受けないようにつくられている。

その中で未夜の両親は、この町を治める元老院げんろういんと外部防衛部隊の長
を務めている。

「そう、じゃあ私たちは何も言わないわ。でも少しくらいは、家に
戻りなさい」

「はあゝい！ー！」

今回未夜は、父の過去に憧れ

その学校で、父を越えようと思い、町を出ることにしたのだった。

「パパ、ママ、行つてきます…」

「行つてらっしゃい」

流石に別れとなると寂しくなったのか、未夜は涙を溜めてしばらく逢えないであろう、斑と朝夜に別れを告げた。

「…朝か」

神奈川県、川崎市。ここ、南天アパートでは宮本文都が目を覚ました。

そして、身支度を済ませた文都は、通学用のカバンと身の丈ほどもある黒い大きな箱のような物を、背負った。

「よいしょっと…」

「フミー、早く学校に行こう」

外では、幼馴染の出雲風霞が待っていてくれた。

「あ！今行く！」

家を出た文都は風霞と一緒に学校へと向かった。

学校についた二人は、お互いの教室へと向かっていった。

文都が通っているここ、『武装軍事専門学校』略して『武軍』は、国の防衛と犯罪の取り締まりを

目的として創られた学校で、1学年12クラスあり、総勢で1440人の生徒が通っている。

しかし今は、1年生が入学していないので、960人しか通っていないのだが、

この学校の授業は、普通科の授業が2時間、あとの授業が、それぞれが選択した科別授業という

ものである。

ここで少し科目の説明をしておこう。武軍では、全12科目に分けられている。

武闘派の<戦場科>、<狙撃科>
フロント
スナイプ

策略派の<隠密科>、<諜報科>
シークレット
インテリジェント

調査派の<搜索科>、<情報科>
サーチ
インスペクト

医療派の<救護科>、<薬剤科>
リカバリー
ドラッグ

工作派の<開発科>、<輸送科>
クリエイト
キャリア

最後に、万能派の<超能力覚醒科(SAC)>、<超能力研究科(SIC)>という科目が存在する。その中で文都は、サーチ搜索科に所属して

いて、単位がギリギリというもので俗に言う“落ちこぼれ”である。

逆に、風霞は超能力研究科(SIC)の主席で

プロフェッサ教授科から期待されている優等生である。

大まかな科目の説明は、これで終わりである。さて、本題に戻るとしよう。

昼休み

いつものように文都は、キャリア輸送科に属している悪友の平本一と屋上にいた。
ひらもとはじめ

「…なあ、文都」

「何？」

文都は素っ気無く答えた。

「お前なんで、戦場科^{フロント}に入らなかったんだ？」

「はっ… あんなどこ俺にはあわねえよ。」

俺は早くここを抜け出して、『ESP C』に行きたいんだ」

「『ESP C』っていやあ、超能力者が集まる科学都市だろ？…」

お前はそんなとこより、戦場科^{フロント}の方が合ってると思うぜ？」

「がそう言うのには、それなりの理由があった。去年文都は、戦場科^{フロント}の

「実力実戦テスト」で、それを受けていた生徒8人と審査兼工作をしていた教師5人を拘束する

という伝説をつくり各科目で最も高いランク、Sランクという評定をもらう程の実力持っている。

「フン、でも俺は考えを変えるつもりはない」

「でも、お前、せっかくあれがあるってのにもたいなくねえか？」

「いいんだよ。それこそ『ESP C』であれを使っべきだ」

「まっ、そこはお前の勝手だけだな…」

キー

ンコーン、カーンコーン♪

午後の活動を告げる予鈴が、校舎中に響き渡った。

そして、放課後

文都が1人で下校していると、

ババババババッ！！！！！！

近くでマシンガンを発砲する音が聞こえた。

「！！　なんだ！」

文都が音のほうを向くと、1人の少女がこっちに立体正方形の何かから逃げていた。

1つの出会い

は偶然か、それとも・・・必然か

〔武装軍事専門学校校則〕

第1条　必ず武器は着用すること。

第2条　普通授業の終わり次第速やかに各科目の教室へ移動すること。
なお、

依頼を受けている場合は授業の免除を許可する。

1 武軍（後書き）

「Got・Knows」 1を読んでくださり、ありがとうございます。

2作目になりますが、「人魚の唄／＼マーメイド・ソング」と違い、設定が細かいところがあるので、苦労しました。

1作目に続き、今後とも温かく見守って下さるよう、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6983o/>

Got.Knows

2010年11月4日02時40分発行